



根堀台だより

平成29年8月29日

第 47 号

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

ピアカウンセリング 自分の生き方を考える



この夏の一番の思い出は？



自分の過去と未来を語る

8月29日(火)の5・6校時、秋田看護福祉大学の〇〇教授と看護福祉学部看護学科の6人の学生さんをお迎えし、3年生で「ピアカウンセリング」を行いました。本校では「ピアカウンセリング」を毎年実施していますが、最近由利本荘市内の他校でも行うようになってきました。

「ピアカウンセリング」の「ピア」とは「仲間」「対等な立場の人」という意味で、同じような立場や悩みを抱えた人たちが集まって、同じ仲間として行うカウンセリングのことです。同じ立場や体験をした仲間だからこそ分かり合えるということを基本に置いています。

最初に「アイスブレイク」を行いました。これは参加者の緊張を解き、気軽に話し合える雰囲気を作り出すためのゲームで、学生さんたちの一生懸命さが子どもたちの心を和ませてくれました。次に「ライフライン」を行い、過去の自分と未来に自分について話し合いました。

「ピアカウンセリング」の効果は3つあります。一つ目の効果は、自分の悩みを話したり、相手の話を聞くことで、「悩んでいるのは自分だけではない」ことに気付き、自分の周りにも同じ体験をしている人がいることが分かって「ホッ」とすることができます。

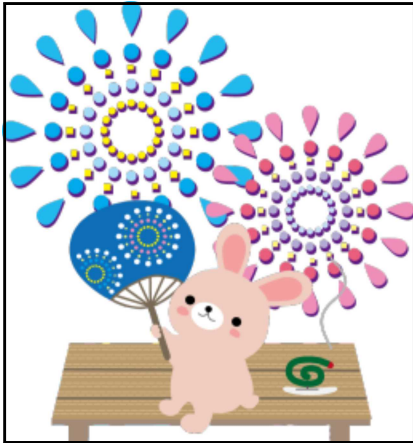
二つ目の効果は、悩みを抱えているとどうしても一人で考え込んでしまう傾向があります。しかし、例え同じ悩み

を抱えていてもそれぞれ違った知識や経験を身に付けている人たちから自分が知らなかった話を聞くことで、新たな「気づき」を得たり、自分の世界を広げたり、「あの人ができたのであれば、自分にもできるかもしれない」と自信につなげることもできるのです。

三つ目の効果は、「ピアカウンセリング」は守られた空間とルールの中で、自分のことを話したり、他の人の話を聞いたりしますが、「ピアカウンセラー」の進行によって運営されるため、安心して、「他の人との関わり方を学ぶよい機会」にもなるのです。

本格的な「受験期」を迎え、悩んだり、不安になったりする時が来ます。「苦しいのは自分だけじゃない。みんな同じなんだ。」「みんなも自分の夢に向かって頑張っているのだから、自分も頑張ろう」と思うことで不安を解消して前向きな気持ちになったり、相手の気持ちを思いやり、支え合うことで「仲間意識」を高めていくための「機会」になればと思います。

3年PTCRを実施 夏の一夜を親子で楽しむ



8月26日（土）の午後4時から、「3年PTCR」が「ふれあい広場」で行われました。開始前に突然激しい雨が降ってきたのですが、お陰様で予定通り実施することができました。

バーベキューでは焼きそばや焼き肉、焼き鳥、そしてデザートには秋田名物「ババヘラアイス」まで登場したそうで、みんなお腹いっぱいになったことだと思います。

また、日が沈んでからは、ソフトボール場近辺に悲鳴が響く「肝試し」とグラウンドでの「花火大会」など、親子で「行く夏の一夜」を楽しく過ごすしました。

特に、3年生にとっては最後のPTCR（高校ではありません）でもあり思い出深いものとなったことでしょう。保護者の皆さん、準備から後片付けまで本当にご苦労様でした。

あいさつ強調週間 生活安全委員会の取組



8月30日（水）から生活安全委員会による「あいさつ強調週間」が始まりました。

生活安全委員が朝の玄関でのあいさつを終えた後、7時35分頃から各学級をまわり、学級毎にその日のあいさつの様子について評価を行い

ます。初日は「個人のあいさつが暗い人と明るい人が大きくあった。（1年）」「だいたいの人が声が大きかったけど、その中でも小さい声の人がいた。（2年）」「教室でのあいさつはよかったが、個人のあいさつの声が小さかった。（3年）」というコメントが玄関ホールの掲示板に書かれていました。

あいさつの「個人差」が大きいようです。確かに「声の大きさ」には「個人差」がありますが、ただ叫んで大きい声を出せばいいというのではなく、生活安全委員が感じたのは単なる「声の大きさ」ではなく、あいさつの「取組の差」だったような気がします。

校報25号で、「あいさつ」には相手を祝福してあげるという「思い」がこめられており、「あいさつ」は「心を開いて相手に近づく言葉」だということを書きました。せっかくみんなで取り組むあいさつです。お互いにあいさつし合うことで大きな力がもらえる、そんなあいさつを目指していきましょう。